『佐野藤三郎さんをしのぶ』より抜粋



そんなしてもにあって，米はほとんどとれない。しゅうかくのない時は，タニシも命のつなでした。だから，まともな米は食べられなかった。かてとたくわんにみだけでしたわ。

で喜んだ時のこともおぼえていますが，もみのままでのはりの上にむしろだてしてした。によるなどにえたわけです